

## ナミビア月報

(2021年2月)

在ナミビア日本国大使館

### 【内政】

- 国民議会議長、“ジェノサイド追悼の日”制定について呼びかけ
- 新型コロナワクチンの到着に遅れ
- 大統領、国会開会演説
- ヌヨマ初代大統領の健康に問題なし

### 【外交・対外関係】

- 象 170 頭のオークションについて
- 大統領、ファキ AUC 委員長再選に祝意
- 中国、新型コロナワクチン 10 万ドースを寄贈予定
- 日本政府、WHO を通じ E 型・A 型肝炎診断キットを供与
- ボツワナ大統領の来訪

### 【経済】

- ナミビア航空債務問題（チャレンジエアーとの間では示談で）
- 内閣、ナミビア航空の清算手続きを承認へ
- 小麦 114, 360 トンが不足
- ナミビア航空、任意清算手続きへ
- 国家開発計画“ビジョン 2030”の改訂へ
- 穀物 140, 000 トンが不足

### 【その他】

- 保健・社会サービス大臣、ロシア製ワクチン「スプートニク V」の有効性に言及

### 【内政】

- 国民議会議長、“ジェノサイド追悼の日”制定について呼びかけ

カチャヴィヴィ国民議会議長は、憲法・法律問題に関する国民議会常任委員会に対し、“ジェノサイド追悼の日”制定に関する法案審議に優先的に取り組むべき旨要請した。独立治下の 1904 年から 1908 年のナマ民族及びヘレロ民族に対する虐殺事案に関し、2016 年に野党 SWANU（南西アフリカ国民同盟）より“ジェノサイド追悼の日”を制定すべきとの国会動議が出され、昨年にはカポフィ内務大臣が、同追悼の日制定に関する法案を内閣に

提出する旨説明した経緯がある。SWANUは、国内の全ての捕虜収容所が閉鎖された1908年5月28日に因み5月28日を同追悼の日にするべきと主張しているが、他の野党（PDM（人民民主運動））等からは10月2日を同追悼の日とするべき等の提案がなされている。（1日付ニューエラ紙5面）

#### ●新型コロナワクチンの到着に遅れ

2日、保健・社会サービス省関係者（Katjitaie 専門医）は、当初1月末か2月初めに到着する予定であると発表したCOVAXファシリティを通じた新型コロナワクチン（ファイザー社製）については、到着が遅れ3月中旬になるであろうと述べた。Katjitaie 専門医によれば、この遅れは多大の需要に対しワクチン製造者が対応しきれなくなっていることによるとしている。他方、AUとアフリカ輸出入銀行との間で調整され、AU各国に配布される予定のワクチンについては、ラマポーザ AU議長は数週間の内に各国に届けられるであろうと語っている。ナミビアはかかるAUを通じたアレンジにより7百万ドースのワクチンを受け取る予定である。なお、シャングラ保健・社会サービス大臣は、ナミビアにおいてワクチンは無償で投与する計画であると述べている。（3日付ナミビアン紙3面）

#### ●大統領、国会開会演説

9日、第7回国会の第3会期が開会され、ガインゴブ大統領が録画ビデオにより開会スピーチを行った。大統領は、国会議員に対し、国民の信頼を裏切ることが無いよう、常に模範的な行動を示すことにより高い基準の行動を起こしてもらいたい旨訴え、また、活発な、かつ理性的な国会討論を期待したい旨述べた。これに対し、野党からは、大統領が開会スピーチを録画ビデオにより行うことは適切でなく、“フィッシュロット・スキャンダル”（注：漁獲割当に係る大規模不正疑惑）をはじめ不正疑惑事案の追求を避けるためである等の不満が表明された。クーゴンゲルワ＝アマディーラ首相は、関連国内法は、大統領がリモートで開会スピーチを行うことを禁じてはいないとして反論した。（10日付ニューエラ紙1面、ナミビアン紙1面）

#### ●ヌヨマ初代大統領の健康に問題なし

ヌヨマ初代大統領が健康に問題を抱え入院中であるとの情報が匿名の女性からもたらされたことに関し、22日、大統領府は、かかる情報は根拠が無いとして否定した。ヘンガリ大統領府報道官は、ガインゴブ大統領は、初代大統領はお元気であり、心配をするようなことは何もない旨国民に伝えたいとしていると述べた。（23日付ニューエラ紙1面）

#### 【外交・対外関係】

#### ●象170頭のオークションについて

ナミビア政府が野生象170頭をオークションにより販売するとの計画に関して、国際メディア、動物愛護団体や環境保護団体等から批判されていることについて、環境省が反論

している。具体的には、環境省は、ナミビアの象の数は年間 5%のペースで増加してきており、170 頭はナミビアの象の総数の 1%にも満たない数である、また、オークションにかける象については、Omatjete、Kamanjab、Grootfontein-Kavango 及び Grootfontein-Tsumkwe 地域の象を想定しているが、国立公園や動物保護区ではなく、共同農地や商業農地内の象を対象としている、更に、販売収益は、野生動物保護や地方開発プロジェクトのために活用することを想定している等説明している。(3 日付ニューエラ紙 3 面)

#### ●大統領、ファキ AUC 委員長再選に祝意

6 日、ガインゴブ大統領は、第 34 回 AU 総会において再選を果たしたファキ・アフリカ連合委員会 (AUC) 委員長に対し、祝意のメッセージを送った。また、同様に AUC 委員長職を争い副委員長の職に就いたンサンザバグワナ (Dr. Monique Nsanzabaganwa) 副委員長にも祝意を伝えた。なお、AU 議長職は、これまでのラマポーザ南ア大統領からチセケディ・コンゴ (民) 大統領に引き渡された。(8 日付ニューエラ紙 2 面)

#### ●中国、新型コロナワクチン 10 万ドースを寄贈予定

19 日、張 (Mr. Zhang Yiming) 中国大使は、中国政府がナミビア政府に対し新型コロナ対策支援の一環で 10 万ドースの新型コロナワクチンを寄贈することを決定した旨公表した。中国大使は、ワクチンについては中国国内での生産能力に限りがあるといったような困難も抱えているものの、ナミビアを含む開発途上国に対して優先的に供与するとの判断を行った旨述べている。(19 日付ニューエラ紙 5 面)

#### ●日本政府、WHO を通じ E 型・A 型肝炎診断キットを供与

日本政府は、WHO を通じ E 型・A 型肝炎診断キットを保健・社会サービス省に供与した。同引き渡し式が 22 日、シャングラ保健・社会サービス大臣、セイゴ=モーゼス WHO 当地代表及び日本大使他出席のもと、実施された (於 保健・社会サービス省)。(23 日付ニューエラ紙 2 面、ナミビアンサン紙 2 面)

#### ●ボツワナ大統領の来訪

25 日、マシシ・ボツワナ大統領が日帰りで当国を訪問し、ガインゴブ大統領と会談した (注: マシシ大統領は 1 月 29 日に同じく日帰りで来訪、本年 2 回目となるナミビア訪問)。ハンガリー大統領府報道官は、ナミビアとボツワナは長い国境線を挟んで隣接する国同士であり、両大統領も特別な友好国であるとの認識を有しており、様々な分野で二国間協力関係を強化して行くための協議を行った旨述べた。両国間では、2016 年に大西洋の海水を淡水化しボツワナまでパイプラインを敷設し給水するとの大規模構想が提起されて今日に至るところ、今次首脳会談においても同構想について議論された。(26 日付ニューエラ紙 1 面)

## 【経済】

### ●ナミビア航空債務問題（チャレンジエアーとの間では示談で）

ナミビア航空の債務問題に関し、航空機リース料未払い額 253 百万ナミビアドルの返済に係るベルギーの Challenge Air からの訴えについては、1 月 30 日に高等裁判所の判断が下される予定であったが、同 30 日ナミビア航空とチャレンジエアーの間で、示談合意がなされた。同合意内容は、チャレンジエアーとの債務 178 百万ナミビアドルについて、2 月 18 日までに 104 百万ナミビアドルを返済、その後、10 ヶ月にわたり毎月 7.3 百万ナミビアドルを返済して行くとの内容である。同示談合意について、ジョーステ公共企業大臣は、詳細について相談にあずかっていない、また、ナミビア航空は、チャレンジエアーのみならず複数の債務を抱えており、いずれにせよ、現時点で、個別の債権者に対して支払いを行うとの立場にない旨述べた。シイミ財務大臣は、チャレンジエアーとの今次示談合意について、ナミビア政府は株主として関与して行く用意があるとしつつも、ナミビア航空の債務について政府は過去 10 年間に約 84 億ナミビアドルの救済を実施してきており、引き続き多額の債務を抱えている旨、また、ナミビア航空が提示している新たな経営再建計画は、ナミビア航空を清算するとの計画に比しても 70 億ナミビアドル高くとつくと理解している旨コメントしている。(1 日付ニューエラ紙、ナミビアン紙 1 面、ナミビアンサン紙 1 面)

### ●内閣、ナミビア航空の清算手続きを承認へ

内閣は、ナミビア航空が自主的に清算手続きに入ることを承認し、また、先般、辞任を表明した 3 名のナミビア航空重役会議メンバーの後任を指名した。これに関して、ジョーステ公営企業大臣は、ナミビア航空の清算後の資産を保護して行くための措置は取って行くと述べている。ナミビア航空とチャレンジエアー（注：債権を有するベルギーの航空会社）との示談合意によれば、2 月 18 日までにナミビア航空は債務額のうち 107 百万ナミビアドルをチャレンジエアーに返済することとなっている。(11 日付ナミビアンサン紙 1 面)

### ●小麦 114, 360 トンが不足

ナミビア農業委員会（NAB: Namibian Agronomic Board）は、メイズに次いで 2 番目に重要なナミビア国民の主食である小麦が 114, 360 トン不足するとの見通しを発表した。ナミビアにおいて今年の小麦消費量は 118, 824 トンと見込まれるが、生産量はそのわずか 10.3%の 12, 251 トンと見込まれ、114, 360 トンは輸入に頼らざるを得ない。NAB によれば、ナミビアは毎年、小麦の国内消費量の約 90%を輸入しており、また、南部アフリカ諸国も同様に国内の小麦消費量を自給できる国はなく、例えば、南アは 140 万トンを入力し、アンゴラが 70 万トン、モザンビークが 65 万トン、マダガスカル、モーリシャス、ボツワナ及びマラウイはそれぞれ 10 万トン以上を入力している状況である。(11 日付ナミビアン紙 13 面)

### ●ナミビア航空、任意清算手続きへ

11日、ナミビア政府（シイミ財務大臣、ジョーステ公営企業大臣）は記者会見を開き、ナミビア航空を任意清算手続きに付すことを正式に決定した旨を発表した。ナミビア航空は、昨年8月時点で資産総額9.81億ナミビアドルに対し負債総額が約30億ナミビアドルに達する等、財政状況が慢性的に悪化してきたことから、かねてから再建は困難ではないかと言われていた。過去30年にわたり総額80億ナミビアドル以上の救済策を取り続けてきたナミビア政府にとって、今次決定は決して容易なものではなく、シイミ財務大臣は、ナショナル・フラッグ・キャリア救済のため、他社との提携を含め全ての選択肢を慎重に検討したが、創設以来、同社の運営はコストが利益を大きく上回る状態が続き、今後も収益を上げることは難しいと判断し、やむなく任意清算を決定した旨述べた。更に同大臣は、本件清算に係る政府負担コストは20億ナミビアドルを越えるとの報道を認めつつも、精算費用は、株主（ナミビア政府）が全額負担するのではなく、ナミビア航空の資産売却益等によっても賄われると付け加えた。ジョーステ公営企業大臣は、不適切な路線に不適切な飛行機を飛ばし、その結果、飛ばせば飛ばすだけ赤字を増やすといった不適切なビジネス・モデルが巨額の負債の原因と指摘した。同大臣によれば、新型コロナウイルスの影響による運航停止期間中の赤字は1月当たり1.11億ナミビアドルであったのに対し、運航期間中の赤字は同1.19億ナミビアドルであった由。（12日付ニューエラ紙1面、ナミビアン紙1面、ナミビアンサン紙1面）

### ●国家開発計画“ビジョン2030”の改訂へ

カンジョゼ国家計画委員長官は、先の記者会見において、余すところ9年となった国家開発計画“ビジョン2030”を今日の実態を踏まえた開発計画に改訂すべく見直し作業を行っている旨述べた。“ビジョン2030”は、ナミビアが2030年までに、平和、調和、政治的安定を享受しつつ、人材により発展し、繁栄した、かつ工業化された国になるためのプランを規定したものである。（16日付ニューエラ紙7面、ナミビアンサン紙経済面3面）

### ●穀物140,000トンが不足

農業省が発表した調査報告書によると、ナミビアにおいて本年4月末の時点で約140,000トンの穀物不足が見込まれる由。農業省は、昨年11月7日から12月4日の間、北部7州の穀物生産地域で調査を実施した結果を発表したところ、昨年前半に十分な降雨が無かったことから穀物生産量が充分に見込めないとして、本年4月末の時点ではナミビア国内の穀物消費量321,600トンに対し、同生産量は215,700トンに留まり、約140,000トンの不足（注：記事のママ）が見込まれるとしている。（22日付ナミビアンサン紙4面）

### 【その他】

#### ●保健・社会サービス大臣、ロシア製ワクチン“スプートニクV”の有効性に言及

シャンガラ保健・社会サービス大臣は、ロシア製新型コロナウイルスワクチン“スプートニクV”

について、医学雑誌ランセットによれば同ワクチンの有効性は 91.6%であるとの治験結果が公表された旨述べた。ランセット誌は“スプートニクV”について 20,000 人に対する投与の結果、同ワクチンの有効性が確認されたこと、及び 1 回の投与で免疫効果が期待できる旨紹介している。これまで、シャングラ大臣は、ナミビアにおいては全人口の 60%から 80%に対しワクチン投与を計画したい旨述べるとともに、ワクチン入手については、その 20%分は COVAX ファシリティを通じたアストラゼネカ社のワクチンを想定しており、残りの 40%分のワクチン入手については、中国製、ロシア製、インド製、米国製を含めその入手の可能性を追求していく旨述べてきた。(18 日付ナミビアン紙 5 面、ニューエラ紙 3 面)

(了)